



セミファイナリストの西尾真実さんと浜野与志男さん。ふたり共大健闘をしたが、惜しくもファイナルには手が届かなかった



from Grosseto (Italy)
グロッセート(イタリア)

世界のコンクール便り Vol.22

文・写真◎アーリンク明美
(ピアニスト/アーリンク=アルゲリッチ財団)

Competition Reports from Across the world

A. スクリャービン国際ピアノコンクール

*詳しくは <http://www.premioscriabin.it/> を参照。

2015年はロシア人作曲家アレクサンドル・スクリャービンの没後100年記念ということで、各地でイベントなどが企画されている。ローマから電車で約2時間、トスカナ州のグロッセート県で毎年開催されている、『A. スクリャービンコンクール』は今回で17回目を迎えた。現在『スクリャービン』と名のついたコンクールは、モスクワ、パリ、このグロッセートに存在する。残念ながらスクリャービンはこの街を訪れてはいないが(一番近くでは、グロッセートから北西約300kmに位置するジエフヴァへ旅したことは知られている)、芸術監督兼審査委員長のアントニオ・ディ・クリストファーノ氏がスクリャービンに傾倒しているため、このコンクールを創設されたそうだ。

今年は66名の応募者があり、その中から日本人9名を含む39名が、2月17日〜22日に行われたコンクールに臨んだ。

審査員はアンドレアス・フレリヒ、岡田敦子、テレゼ・ファビ諸氏ら、計9名。注目の楽器であるが、今回はライプツィヒから運ばれたブリュートナーのコンサートグランドピアノが全3ラウンドで使用された。



1819年に建てられたという美しい劇場のステージでポーズをとる、芸術監督のアントニオ・ディ・クリストファーノ氏と優勝のガリーナ・チスチャコヴァさん。実はここは傾斜舞台(弾く時に右下がり)。ヨーロッパの劇場に少なくないので、参加の際は心得ておきましょう



3位(2位なし)のアントニオ・ベルナルド・デ・キロス(日本名: 矢間寛明)さん。スペインで勉強中の彼だが、日本で彼の演奏が聴ける日も近いのでは?

は不可能であつたのだが、2位であつたため、再挑戦して今回の勝利に至つた。3位(2位なし)はスペイン/日本人のアントニオ・ベルナルド・デ・キロスさんが受賞。17歳の若さですでに数々のコンクールに入賞し、頭角を現しつつある彼。これからますます楽しみです。

このコンクールの年齢制限は35歳で、スクリャービンの曲以外の選曲は自由。来年の2月23日〜28日に予定されているコンクールに挑戦されてみてはいかがでしょう?

結果は、ファイナルで圧倒的なスケール感のあるチャイコフスキーの協奏曲第1番を披露したロシア人、ガリーナ・チスチャコヴァさんが優勝し、あわせて聴衆賞とスクリャービン賞も受賞。彼女はすでにモスクワのスクリャービンコンクールで入賞し、このコンクールでも2007年に2位(1位なし)を受賞している。もし当時優勝していたら、今回の参加